

# 現場のニーズにアダプテッド！ ～特別支援学校の体育の授業づくり～

令和4年度 専門研修(短期研修)講座

福岡県体育研究所

会場:福岡県立スポーツ科学情報センター(アクション福岡)

2022年8月4日(木)

<予定>

9:45～10:45 講義 (知識・理論編)

11:00～12:00 実技 1

13:00～15:30 実技 2

15:30～16:00 実技・まとめ

東海大学体育学部体育学科 内田匡輔

## 自己紹介



1970年生  
東京都出身  
神奈川県  
小田原市在住

聴覚特別支援学校  
中学校  
高等学校  
教員暦 約11年

ラグビー  
野球  
柔道  
スキー 等々

## 運動がうまくできない 子どもたちの思い

子どもたちの声が教えてくれること

•同じように体育・スポーツ・運動を楽しみたい

•うまくやりたいけれどもできない

•学校の授業ではどうもうまくいかない

体育・スポーツの指導実践につなげる

•障害者権利の遵守

•運動発達を捉えなおす

(平均台に乗るく相手がいる)

•アダプテッド=Adapted (=あきらめの悪さ)  
どこまでもできることを探す 色々な工夫を考える

## 今日の講義

- 1 私とアダプテッド・スポーツ(自己紹介を兼ねて)
- 2 アダプテッド・スポーツの考え方とは何か
- 3 アダプテッド・スポーツの考え方に基づく
- 4 インクルーシブにつなげる授業づくり
- 5 これからの「体育・スポーツ」はどうあるべきか

# アダプテッド・スポーツ 2003年頃から使われている

- 従来のスポーツ



- Adapted: 適合する、適応する  
→ スポーツをつくる

## アダプテッド・スポーツの考え方に基づく

- その人に合わせる
- その人=個人 個人のつながり=社会
- 社会のつながりを育む→ 繋がりが増える
- 繋がりのバリエーションが豊富になる: 幸せ



「アダプテッド」に必要なことは?

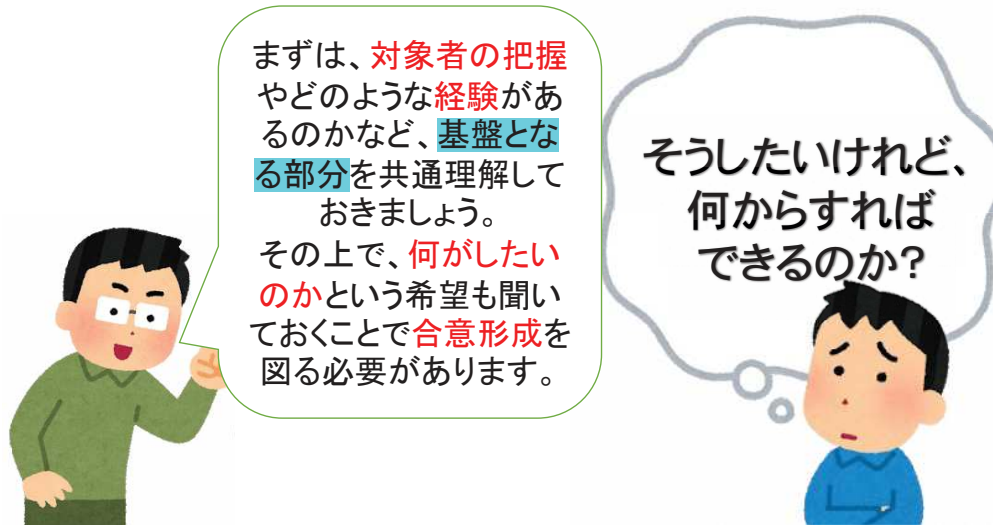
## アダプテッドに必要なことは? (84p)

- 相手を知る  
→ その人を知る
- エコロジカルに考える  
→ 単に個人の特性のみに合わせるのではない  
→ 複合的にアダプテッドの内容を吟味する
- 臨機応変に対応する  
→ 子どもたちの運動機会を失わせない
- あきらめない

## アダプテッドに必要なことを考えるために……

●保健体育科改訂の趣旨を踏まえる → 改善事項

体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無などにかかわらず



## アダプテッドに必要なことを考えるために……

① 支援は“基盤”の上で考える  
自立活動の内容を参考にする

② 何がしたいのか・何ができるのかを調べる

・「したいのか」→本人・保護者からの聞き取り

人権への配慮

・「できるのか」: 実態把握(アセスメント)

授業の“基盤”となるもの → 「自立活動」を活用

学習指導要領(本体)第1章総則

第5款(かん) 生徒の発達の支援 20p

1 生徒の発達を支える指導の充実

2 特別な配慮を必要とする生徒への指導

(1) 障害のある生徒などへの指導

ア 障害のある生徒などについては、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、個々の生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。  
イ 障害のある生徒に対して、学校教育法施行規則第140条の規定に基づき、特別の教育課程を編成し、障害に応じた特別の指導(以下「通級による指導」という。)を行う場合には、学校教育法施行規則第129条の規定により定める現行の特別支援学校高等部学習指導要領第6章に示す

**自立活動**の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行うものとする。その際、通級による指導が効果的に行われるよう、各教科・科目等と通級による指導との関連を図るなど、教師間の連携に努めるものとする。

## 「実態把握」(アセスメント)とは

・できないことではなく、できることを捉える視点  
ケース Aくん

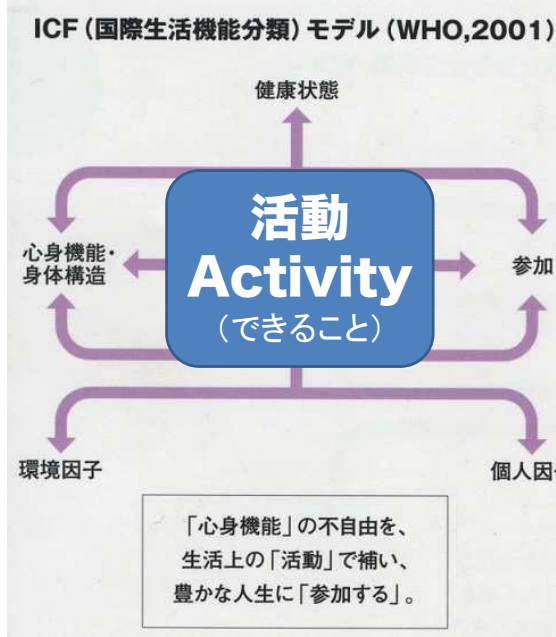
痙直型脳性まひで四肢体幹機能障害がある小学校2年生の男子。小学校の通常学級に在籍している。車椅子を操作して移動できるが、速度は遅い。机などにつかまり立ちをすれば、5分程度立位を保つことができる。医師、理学療法士からは、立位姿勢を取ることは大切であるので、歩行器や立位保持装置を学校でも使用してほしいとの要望があった。学習面では、体育。運動会などの体育的活動は見学か介助員と一緒に別のプログラムで実施していることが多い。本人は、他の児童と一緒に参加したいという要望がある。

体力テスト

ドッジボール

キックベースボール

# 障害・障がい・障碍・障礙



2000年までの「障害」

- ・機能障害(impairment)
- ・能力障害(disability)
- ・社会的不利(handicap)

↓

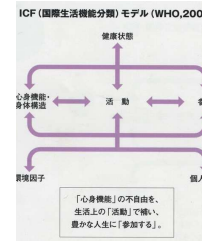
この表現を含めると同時に、肯定的な体験も含むよう意味を拡大している。

**障害モデル**  
 「医療モデル」↑  
 ⇐「社会モデル」

# 「実態把握」(アセスメント)とは

できないことではなく、できることを捉える視点

”ICF(国際生活機能分類)モデル“  
で考える



- ・ 学習上の配慮事項や学力
- ・ 基本的な生活習慣
- ・ 特別な施設・設備や教育機器の必要性
- ・ 興味・関心
- ・ 対人関係や社会性の発達
- ・ 身体機能
- ・ 知的発達の程度
- ・ 病気の有無
- ・ 生育歴、教育歴、進路、家庭や地域環境……

## 全身全霊でアダプテッドする 88p

- ・ 子どもたちの「やりたい」を優先し、その「やりたい」という気持ちをつくるように雰囲気を含めてつくっている。
- ・ そして
- ・ 少しでも「やりたい」を「やった！ できた！」とするように

**全身全霊で  
アダプテッドする。**

## 工夫・調整・支援

確実にできる  
課題

頑張ればできる  
課題

今はできない  
課題

- ・ 興味・関心の考慮
- ・ 達成基準の調整
- ・ 活動の簡略化 (スモールステップ, 簡単な手順)
- ・ 物理的環境の工夫・調整・支援
- ・ 用具の工夫・調整・支援達成基準の調整
- ・ 道具・器具・装置の活用
- ・ 参加を促す姿勢 (ポジショニング)
- ・ 介助者からの援助
- ・ 仲間同士の援助
- ・ アクセシビリティの促進 (物理的, 時間, 人的)



# 今日の講義

- 1 私とアダプテッド・スポーツ(自己紹介を兼ねて)
- 2 アダプテッド・スポーツの考え方とは何か
- 3 アダプテッド・スポーツの考え方に基づく
- 4 **インクルーシブにつなげる授業づくり**
- 5 これからの「体育・スポーツ」はどうあるべきか

## 連続性がある「多様な学びの場」

- 体育・スポーツにおける  
“連続性がある「多様な学びの場」とは？”
- 学び  
≡ 「遊び・運動遊び・体育・スポーツ」を介した学習
- 場  
≡ 施設・クラブ・授業など【ハード・ソフト】
- 連続性  
≡ 指導者・時間・仲間・地域・会場 ...

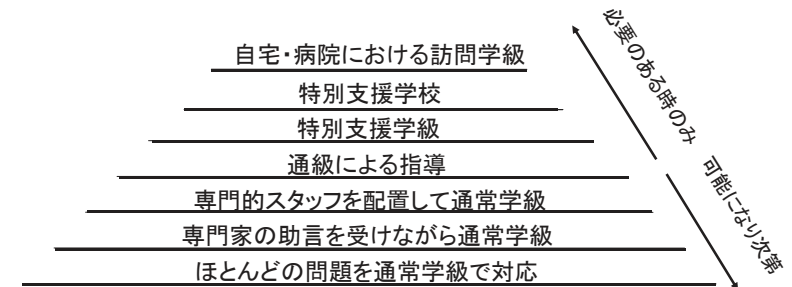
**「学びをの場」をどう構築するか？**

→ **連続性を生み出す鍵**

## インクルーシブ教育システムの構築

### 日本の義務教育段階の 多様な学びの場の連続性

同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要。



図「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」(中央教育審議会)参考資料4

図表 2-28 過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無(過去との比較)



# 子どもにとって「遊び」とは何か？

## 幼児期運動指針【2 幼児期における運動の意義】

(前略)・・・幼児期において、**遊び**を中心とする身体活動を十分に行うことは、多様な動きを身に付けるだけでなく、心肺機能や骨形成にも寄与するなど、生涯にわたって健康を維持したり、何事にも積極的に取り組む意欲を育んだりするなど、**豊かな人生を送るための基盤づくり**となることから、以下のようなさまざまな効果が期待できる。

- (1) 体力運動能力の向上
- (2) 健康的な体の育成
- (3) 意欲的な心の育成
- (4) 社会適応力の発達
- (5) 認知的能力の発達



図表 2-33 過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無 (7-19歳・学校種別)

学校種別	実施の有無	
	実施者	非実施者
<b>【小学校】</b>		
普通学校(通常学級のみ)に在籍(n=491)	44.4%(219)	55.6%(272)
普通学校(通級による指導あり)(n=119)	67.2%(80)	32.8%(39)
普通学校(特別支援学級に在籍)(n=200)	58.5%(117)	41.5%(83)
特別支援学校(養護学校・盲学校・ろう学校)(n=130)	54.6%(71)	45.4%(59)
<b>【中学校】</b>		
普通学校(通常学級のみ)に在籍(n=990)	46.2%(458)	53.8%(532)
普通学校(通級による指導あり)(n=40)	67.5%(27)	32.5%(13)
普通学校(特別支援学級に在籍)(n=107)	56.6%(61)	43.4%(46)
特別支援学校(養護学校・盲学校・ろう学校)(n=80)	57.1%(46)	42.9%(34)
なし(n=471)	50.3%(237)	49.7%(234)
<b>【高等学校】</b>		
普通学校(通常学級のみ)に在籍(n=247)	48.2%(119)	51.8%(128)
普通学校(通級による指導あり)(n=21)	81.0%(17)	19.0%(4)
特別支援学校(養護学校・盲学校・ろう学校)(n=10)	54.5%(5)	45.5%(4)
なし(n=715)	49.7%(355)	50.3%(360)
不明(n=16)	68.8%(11)	31.2%(5)

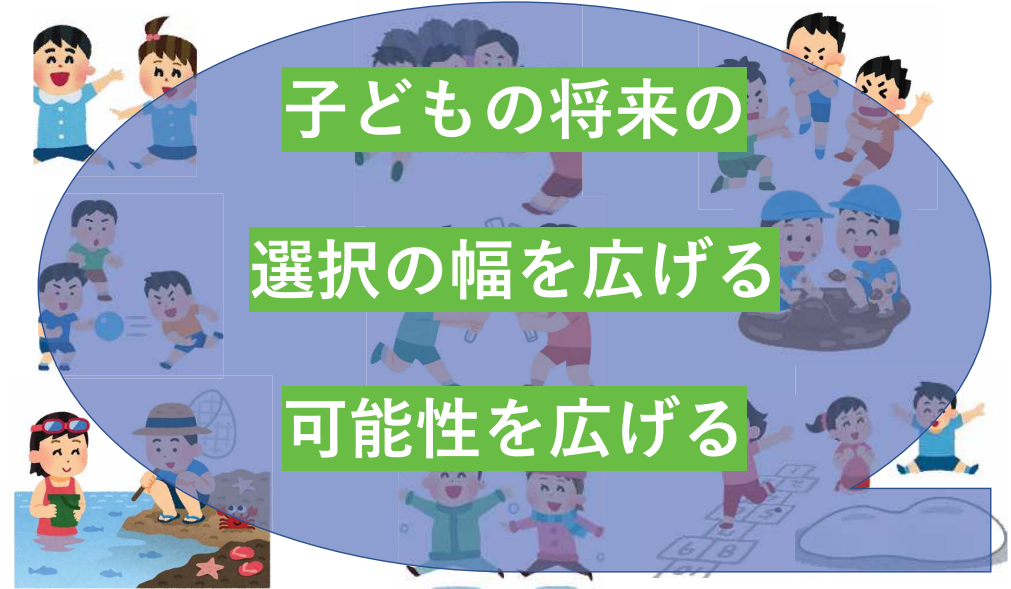
最も高い実施率  
高校の通級

81%  
→量的に非充足

共生社会を目指  
すほど実施率は  
下がる

→多様性の無さ

社会的環境としての学校が  
提供する「学びの場」が豊かである



## 新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 報告 令和3年1月

**I. 特別支援教育を巡る状況と基本的な考え方**

- ・障害者権利条約批准に基づき障害者基本法、障害者差別解消法等の関連法の整備も進み、インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育の取組が進展。
- ・特別な支援を受ける子供の数が増加する中で、特別支援教育をさらに進展させていくため、
  - ① 障害のある子供と障害のない子供が可能な限り共に教育を受けられる条件整備
  - ② 障害のある子供の自立と社会参加を見据え、一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できるよう、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある多様な学びの場の一層の充実・整備
- ・これを更に推進するため、それぞれの学びの場における各教科等の学習の充実を図るとともに、
- ・障害のある子供と障害のない子供が、年間を通して計画的・継続的に共に学ぶ活動の更なる拡充
- ・障害のある子供の教育的ニーズの変化に応じ、学びの場を並えられよう、多様な学びの場間で教育課程が円滑に接続することによる学びの連続性の実現
- ・これにより、障害の有無に関わらず誰もがその能力を發揮し、共生社会の一員として共に認め合い、支え合い、誇りを持って生きられる社会の構築を目指す。

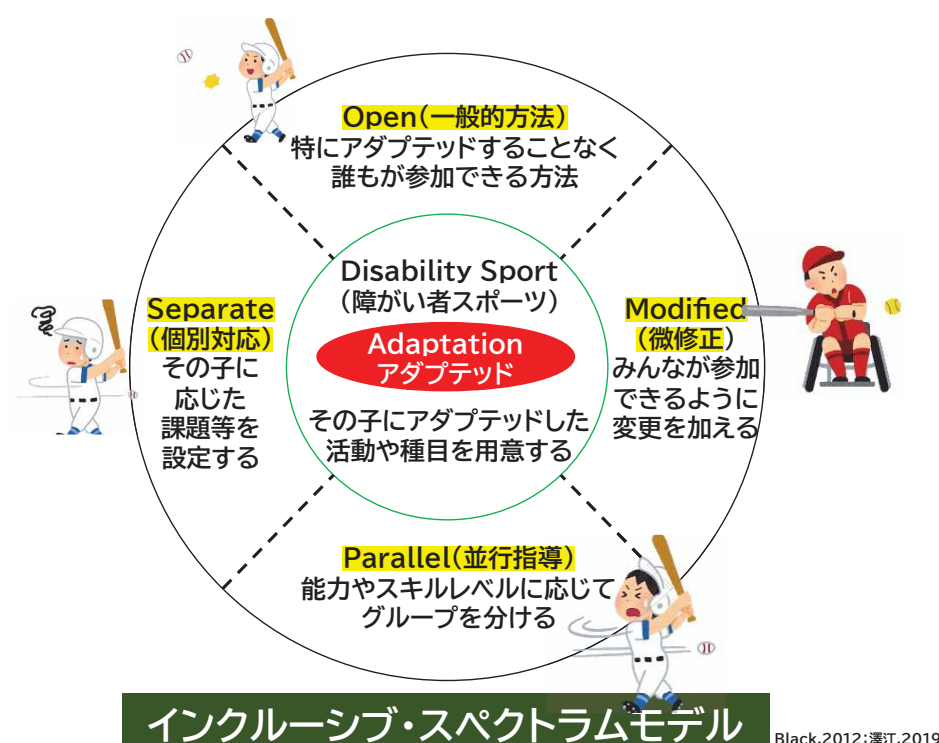
インクルーシブ教育システム構築に向けた整備

連続性のある多様な学びの場の整備





齊藤(2018)『教養としてのアダプテッド体育・スポーツ学』p.85図2-40Davis & Broadhead(2007)をもとに示したエコロジカルモデルにおけるアダプテッドより



Black,2012;澤江,2019

## 学びの連続性の実現に向けて

### ・エコロジカルモデル

課題内容や参加目的が、個人の特性だけでなく、環境に応じて課題が適切にアダプテッドされるモデル。

課題の適切さ、動機づけ、環境調整の3要因を考えながら複合的にアダプテッドの内容を考える。

### ・インクルーシブスペクトラムモデル

目の前の子どもたちの対応方法、工夫するレベルが連続するモデル。対象となる気になる子どもの状態やレベルに合わせて、ひとつの活動の中に形を変化させ、できる活動がある。

## 実践してみましよう！

- ・体づくり運動  
(新聞紙を使って遊ぼう)
- ・遊びから運動へ  
(うちわ遊び ペガーボール)
- ・遊びからスポーツへ  
(卓球バレー・シッティングバレー)
- ・生涯スポーツにつなげる遊び  
(アダプテッドしてみましよう)



# 今日の講義

- 1 私とアダプテッド・スポーツ(自己紹介を兼ねて)
- 2 アダプテッド・スポーツの考え方とは何か
- 3 アダプテッド・スポーツの考え方に基づく
- 4 インクルーシブにつなげる授業づくり
- 5 これからの「体育・スポーツ」はどうあるべきか

## 運動の多様な楽しみ方を共有する

- 共有できていることは学習の証拠  
→共有できていないという問題

## 障害のある人の低調なスポーツ実施率

## 背景には学齢期の半数以上の非実施者

- 共有するために必要なことは何か？  
→多様な関わり方を重視した内容の取り扱い

# 「楽しみ方」と「関わり方」

- 学習指導要領

「運動やスポーツとの多様な関わり方を重視した内容及び内容の取扱いの充実」

→豊かなスポーツライフを継続していくためには、運動の技能を上げていくことのみならず、体力や技能の程度、性別や障害の有無、目的等の違いを越えて、運動やスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践することが求められる。そのため、新たに共生の視点を踏まえて指導内容を示すこととした。また、「内容の取扱い」及び「指導計画と内容の取扱い」に、生徒が選択して履修できるようにすること、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず運動やスポーツを楽しむことができるよう男女共習を原則とすることを示すとともに、生徒の困難さに応じた配慮の例を示した。

## 教師は「関わり方」教え 生徒は「楽しみ方」を実践する

### (4)各科目にわたる指導計画の作成と

ア 指導計画作成上の配慮事項 内容の取扱いの改善(18p)

(オ)障害のある生徒への指導

- 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うことが大切であることを示した。これは、従前、総則に示されていたものを保健体育科でも示したものである。なお、学習活動を行う場合に生じる困難さが異なることに留意し、個々の生徒の困難さに応じた指導方法等の工夫例を新たに示すこととした。

### 困難さに応じた指導法の工夫例

イ 内容の取扱いに当たっての配慮事項(19p)

(ウ)運動やスポーツの多様な楽しみ方

生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質・能力の育成に向けて、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践できるようにすることが重要であることを新たに示した。

アダプテッド・スポーツの考え方



## (2) 障害のある生徒などへの指導(223p)

障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

<困難さ>とは何か？

個々の生徒によって、見えにくさ、聞こえにくさ、道具の操作の困難さ、移動上の制約、健康面や安全面での制約、発音のしにくさ、心理的な不安定、人間関係形成の困難さ、読み書きや計算等の困難さ、注意の集中を持続することが苦手であることなど、学習活動を行う場合に生じる困難さが異なる

# 指導内容 工夫 指導方法

例:球技・知識技能(入学年次) ウェーブスホール型では、安定したハット操作と走塁での攻撃、ホール操作と連携した守備などによって攻防をすること。

走塁距離の変更・調整  
走塁方法の変更・調整

例:走塁とは、塁間を走ることでありますが、ここではスピードを落とさずに円を描くように塁間を走り、打球や守備の状況に応じて次の塁への進塁をねらうなどのボールを持たないときの動きのことを示している。

ベースの配置や素材

## 「運動の多様な楽しみ方が身についている」とは

<中学校 保健体育>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康を大切に、自他の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組もうとしている。

<中学校 保健体育>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年及び第2学年	各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解しているとともに、各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	運動を豊かに実践するための自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。

資質・能力の育成、各教科等の目標の実現を目指し、児童生徒の十分な学びが実現できるよう、学習の過程で考えられる【困難さの状態】に対する【配慮の意図】+【手立て】の例を示す。(安易な学習内容の変更や学習活動の代替にならないよう、教員が配慮の意図を持つ必要)

小学校の例 ※中学校、高等学校については今後整理予定

【配慮の考え方、配慮の例の示し方】

(国語科の例)

【困難さの状態】：視覚、言語理解など

【配慮の意図】

● 文章を目で追いながら音読することが困難な場合には、自分がどこを読むのかが分かるよう、教科書の文を指で押さえながら読むよう促したり、行間を空けるための拡大コピーをしたり、語のまとまりや区切りが分かるように分かち書きをしたり、読む部分だけが見える自助具(スリット等)を活用したりするなどの配慮をする。

具体的イメージなど

【手立て】：見えにくさに応じた情報保障

● 考えをまとめたり、文章の内容と自分の経験とを結び付けたりすることが困難な場合には、児童がどのように考えればよいのかわかるように、考える項目や手順を示したプリントを準備したり、一度音声で表現させたり、実際にその場面を演じさせたりしてから書かせたりするなどの配慮をする。

心の理論など

● 自分の立場以外の視点で考えたり、他者の感情を理解したりするのが困難な場合には、児童が身近に考えられる主人公の物語や生活経験に近い教材を活用し、行動や会話文に気持ちが込められていることに気付かせたり、気持ちの移り変わりがわかる文章のキーワードを示したり、気持ちの変化を図や矢印など視覚的にわかるようにしてから言葉で表現させたりするなどの配慮をする。

注意のコントロールなど

● 声を出して発表することや人前で話すことへの不安を抱いている、自分が書いたものを読むことに困難がある場合には、紙やホワイトボードに書いたものを提示させたり、ICT機器を活用して発表させたりするなど、児童の表現を支援するための多様な手立てを工夫し、自分の考えを持つこと、表すことに対する自信を持つことができるような配慮をする。

## 運動の多様な楽しみ方を共有する

- 共有できていることは学習の証拠
- 共有できていないという問題

## 障害のある人の低調なスポーツ実施率

## 背景には学齢期の半数以上の非実施者

- 共有するために必要なことは何か？

→多様な関わり方を重視した内容の取り扱い

## 困難さに応じた指導のあり方(配慮)

## 知識として身につけ主体的に取り組む



# 小学校の学習指導要領と 学習評価及び指導要録の改善等について(通知)【別紙4】

<小学校 体育>

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	各種の運動の行い方について理解しているとともに、基本的な動きや技能を身に付けている。また、身近な生活における健康・安全について実践的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己の運動の課題を見付け、その解決のための活動を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、身近な生活における健康に関する課題を見付け、その解決を目指して思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動に進んで取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自己の健康の保持増進についての学習に進んで取り組もうとしている。
第5学年及び第6学年	各種の運動の行い方について理解しているとともに、 <u>各種の運動の特性に応じた基本的な技能</u> を身に付けている。また、心の健康やけがの防止、病気の予防について理解しているとともに、健康で安全な生活を営むための技能を身に付けている。	自己やグループの運動の課題を見付け、その解決のための活動を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。また、身近な健康に関する課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	<u>各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう</u> 、 <u>各種の運動に積極的に取り組もう</u> としている。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進や回復についての学習に進んで取り組もうとしている。

## 運動やスポーツを 児童生徒がアダプテッドする

・何をアダプテッドするか？

**ルール**: 障害のある児童・生徒が参加できるようにルールを修正する

**技術**: 障害のある児童・生徒が運動できる方法を考える

**施設・用具**: 障害のある児童・生徒が参加できるように施設や用具を工夫する

【問題】

両腕のない人が卓球をやるときにはどのような工夫が必要か？

ルール、技術、施設・用器具それぞれの工夫の仕方を考えてみましょう

## 学習指導要領における困難さの例

■ 学びの過程で考えられる困難さごとに示す。  
(小学校学習指導要領解説国語編など)

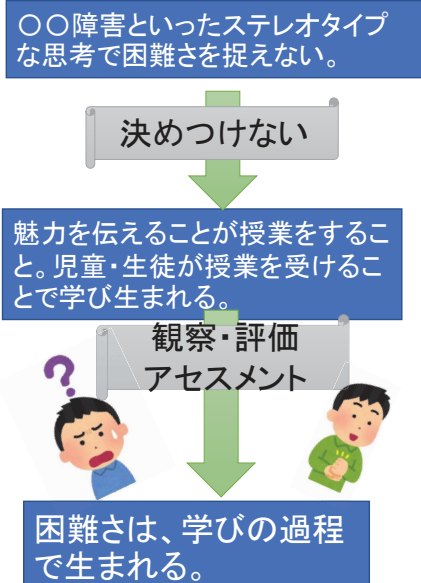
【困難さの例】 ※教科等の特性に応じて例示

見えにくい                      体験が不足  
聞こえにくい                    語彙が少ない など  
触れられない など              <<情報のイメージ化>>  
   <<情報入力>>

色（・形・大きさ）が区別できない  
聞いたことを記憶できない  
位置、時間を把握できない など <<情報統合>>

短期記憶ができない、継次処理ができない  
注意をコントロールできない など <<情報処理>>

話すこと、書くことが困難  
表情や動作が困難 など <<表出・表現>>



つまずきや上手くできていない状況を切り取る。

## 運動の多様な楽しみ方を共有する

・共有できていることは学習の証拠  
→共有できていないという問題

**使命感**

障害のある人の低調なスポーツ実施率

背景には学齢期の半数以上の非実施者

・共有するために必要なことは何か？  
→多様な関わり方を重視した内容の取り扱い

困難さに応じた指導のあり方

**知識**として身につけ主体的に取り組む

アダプテッドを身につけ

**柔軟性**

# 内田の“授業の実際”

- ・ ガイダンス→医師面談の実施(履修確認の徹底)
- ・ 医師判定表の基準や注意事項の遵守(履修登録修正期間内に面談を実施)
- ・ 授業構成(展開例 資料シラバス)

2018年度 体育科目(個別クラス)履修学生 医師判定表

2018年度 春学期  
京都大学健康推進センター

学生証番号	氏名	担当教員名
■■■■■■■■■■	内田 匠輔	先生

1. 医師判定(所見)

■■■■■■■■■■

2. 評価基準

A	注意不要
B	やや注意
C	注意

3. 具体的な注意事項

「石等身の節のロイヤリティあり」  
「転倒」に注意

2018年 4月 11日 14:50 内田 匠輔

時間(分)	主な内容(学生)	主な配慮(教員)
15	更衣 ・ 血圧など体調の確認	移動・更衣状況の確認 健康観察
20	講義 ・ 健康フィットネス・生涯スポーツ関連(教科書に沿って)	必修内容には必ず触れる
20	準備運動とフィットネスの実施 ウォーミングアップと筋力アップ、有酸素運動、コンディショニングの内容提示し、可能な内容を行う	動作等に支障がある学生の支援(移動など) 安全確保
30	スポーツ活動の実施 履修学生の状況に合わせ集団での取り組みを考える	アダプテッド・スポーツの考え方に沿った実施
15	まとめ・振り返り 更衣	健康観察 更衣室状況の確認

- ・ 14回目:授業内試験の実施、課題レポート・カードの提出



その人の幸せに寄与する  
32p

## 1. 生きがいとスポーツ

まもなく50歳を迎える重度の知的障害のある男性がいた。代謝異常の影響もあり太りやすかった彼は、子どもの頃から運動を行うことを求められ続けた結果、“大の運動嫌い”となっていた。体力も低下し健康上の問題も指摘されていたが、「運動」ということばを聞いただけで泣き出してしまうような状態であった。ある日、たまたま彼が“魚好き”であることがわかり、近くの釣り(フィッシング)に誘ってみた。すると釣り場まで早く行きたい彼は、早歩き(ウォーキング)を始め、そのうち体力もつき体重も減っていった。なによりも表情が明るくなり従事していた木工作業の仕事にも張り切って出かけるようになっていったのである。

# コロナ禍での取り組み(2020)

## ○ 通常

1	2	3	4~13	14
全体 ガイダンス	医師 面談	授業 ガイダンス	実技授業 健康チェック・講義・実技	試験 レポート提出

## ● コロナ対応(2020)

1	2	3~14
全体・授業 ガイダンス	医師 面談	遠隔授業(6回) 課題提出 対面授業(6回) 健康チェック・講義・実技

実技内容【トレーニング+スポーツ】  
コンディショニングトレーニングと  
レクリエーションスポーツの組み合わせ

シャッフルボード・ポッチャ・ユニカール・卓球バレー・ミニフライングディスクゴルフ  
+14回目の授業は「レクリエーションスポーツ」の選択

『頼むからからそっとしておいてください』

巻頭エッセイ:ヒヤダイン



僕は体育の授業が大嫌いです。体育の教師も大嫌いです。なぜあなたたち体育教師は僕達にクライスメイトの前で恥をかかせようとするのでしょうか?

(中略)

「被害妄想が強いね」そう思いましたか? いいえ、あなたたちにはわからないのです。だって経験したことないから。体を上手く動かせる人間にはこの感覚は死んでもわからないでしょう。惨めな劣性の烙印を押されるような感覚。授業で恥をかかされるのです。

(後略)



## 発達性協調運動障害 (DCD) Developmental **Coordination** Disorder

- 暦年齢や知的能力に比して、協調運動を必要とする日常生活動作が著しく劣る
- 運動発達の著明な遅れ（歩行、這い這い、座位、など）、持っている物をよく落とす、不器用さ、スポーツが下手、書字が下手
- イライラしやすい、怒りっぽい、すぐ手をあげる、などの行動で相談に来ることもある

実践の中で大切にしたいこと  
『 児童・生徒への視点 』

- 安心していただけること
  - ・無理強いをしない
  - ・見通しが持てるようにする
- わかりやすいこと
  - ・明確な指示（具体的、キーワード、視覚支援）
  - ・構造化
- がんばれること
  - ・ほめられてうれしい→できる自分（自己像）

## 特別支援学校(学級)の具体的な授業とは？

• アダプテッド・スポーツの考え方  
「個々人の実態に合わせて修正したり、創造されたスポーツ」  
を考えることができる

• 内容及び内容の取り扱い  
「生徒の困難さに応じた配慮の例」があることを知っている  
「困難さ」の状態を知るために「障害」について学ぶ  
**体育・スポーツから離れる人を  
授業でつくり出してはならない**

## まとめ

現場にアダプテッドするためには……

- ① (まず)その人に合わせる
- ② どこまでもあきらめ悪く「できること」を考える
- ③ (結果)その人が取り組み続けている